



ずしし環境会議は逗子市が掲げる環境基本計画のなかの行動等指針にもとづき、ゴミ問題、二酸化炭素削減、自然・景観において逗子市の環境への働きかけとしてゴミ問題部会、二酸化炭素削減部会、まちなみと緑の創造部会の3つの部会に分かれて活動しています。

◇◇◇かんきょう講演会のお知らせ◇◇◇

令和3年度かんきょう講演会

主催：逗子市、ずしし環境会議



内 容

- ★ 自然観察の楽しみ方と意義
- ★ 「横浜自然観察の森」の自然

参加
無料

先着
30名

日 時



リモート
開催あり

令和4年3月13日(日) 14:00 ~ 16:00
(13:30 開場)

新型コロナウイルス感染症発生状況により

完全リモート開催

に変更しました(申し込み制)

講 師

横浜自然観察の森レンジャー
尾崎 理恵 氏

プロフィール

1998年~公益財団法人日本野鳥の会レンジャーとして
横浜自然観察の森勤務 子どもの自然体験や大人向け
自然解説講座などの普及教育やボランティア対応に従事



※新型コロナウイルス感染症の動向により募集人員の変更や中止になる場合があります
※事前の体調管理・当日はマスク着用にご協力ください
※体調がすぐれない方は参加をご遠慮いただきますようお願いいたします
※リモート配信も予定しています 詳しくは逗子市役所ホームページをご覧ください

【参加方法】

~~申込は不要です 直接会場までお越しください~~

※託児、手話通訳・要約筆記希望者は3月2日(火)までに
逗子市環境都市課までお申し込みください

【問合せ】

逗子市環境都市課 TEL: 046-873-1111 (内線 457)
ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会 Email:machi73zusi@gmail.com



リモート配信希望の方は
こちらのQRコードよりお申込みください

かんきょう講演会



まちなみと緑の創造部会 ニュース

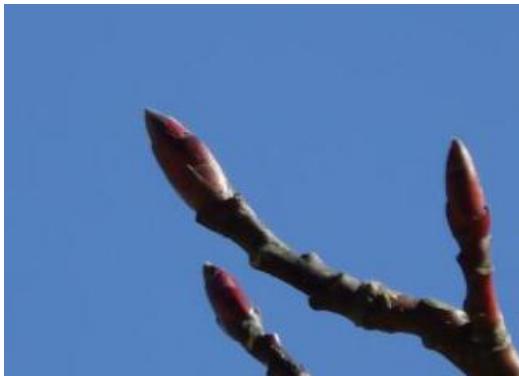
当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

◇◇◇自然観察会のお知らせ 冬芽観察会◇◇◇

2月に自然観察会を行います。冬季の観察会は初めてです。冬に何を観察するの？と疑問がわくかもしれません。実は冬でも観察できる、いやいや、冬だからこそ観察できるもの、それが「冬芽」です。冬芽ってなに？ということで、かんたんに冬芽をご紹介します。

冬芽はおもに樹木の枝先にみられる芽です。春にサクラの芽がほころんで花の蕾が顔をのぞかせますね。あのように想像していただくと分かると思います。樹木の越冬様式のひとつです。小さな鱗片に被われた花や葉の赤ちゃん、その冬を越す姿を観察します。

- 日時 2022年2月13日(日) 9:30~12:00
 場所 第一運動公園内
 集合 朝9:15 バasketボール付近に集合
 装備 動きやすい服装・運動靴等 防寒着 あればルーペ



ミズキの冬芽



サクラの冬芽

◇◇◇真冬の自然観察のすすめ◇◇◇

冬芽の観察会の開催ということで、今回は真冬でもできる自然観察をご紹介します。

植物では上記の冬芽のほかに、草本植物ではロゼット葉というかたちで越冬する仲間がいます。

ロゼットとは地表面に葉を放射状に数枚展開させて冬を越すようすのことをいいます。ちょうど八重咲きのバラの花(ローズ)のようにみえることから rosetta(ロゼット)と呼んでいます。

どんなものがみられるでしょうか。身近にみられるのは庭先にもあるオニタビラコです。写真のようにロゼット葉をつくり、その中心に芽を抱いて寒さを防いでいます。

ロゼット葉だけではありません。ノイバラは逗子のような寒さがそれほど厳しくない地域であれば、冬の間は枝の先端に数枚の葉を残しています。カラスノエンドウは通常なら4~8対の羽状複葉となりますが、冬の期間は1対から2対程度に



ノイバラの越冬のようす



オニタビラコの越冬



カラスノエンドウは葉数を減らす

減らして、からだを小さくしてやり過ごします。

また、野鳥の観察は実は冬のほうがよい場合があります。

逗子は温暖なので大陸や高冷地の夏に繁殖していた鳥たちの多くが越冬しに訪れます。ジョウビタキやツグミ、シロハラ、アカハラ、アオジやシメなどの小鳥類のほか、マガモやオシドリなどのカモ類などもやってきます。冬は多くの植物が葉を落としているため、見通しがよく、冬鳥の観察がしやすい時期といえます。

彼らがどのように過ごしているかちょっとだけのぞいてみるのも冬の自然観察の楽しみです。



シロハラ（沼間）



ツグミ（新宿）

◇◇◇名越緑地便り◇◇◇

久木9丁目にある名越緑地では引き続き湿地の再生作業をしています。夏までに春咲きの雑草を整理できたので、夏以降の草刈りが例年に比べて少しくになりました。秋には茂りすぎたミゾソバをいちど低刈りして適度に攪乱をおこしたので、強害雑草のカナムグラがかなり減り、概ねよい状態のまま冬を迎えられたと感じています。

冬のあいだは春に向けて水路の整備や池にたまった泥かきなど地味な作業が続きます。寒い日もありますが、天気の良い朝に作業をすると程よく汗をかいて心地よい疲労感とともになんだかすっきりした気分になります。1~2時間の短い作業ですが、ちょっとした充実感を味わえます。

是非わたしたちと一緒に作業してみませんか？





ごみ問題部会 ニュース

ごみ問題部会はごみの減量化・資源化をテーマに活動しています。

◇◇◇プラスチック資源循環促進法とは?◇◇◇

2022年4月1日から実施される“プラスチック資源循環促進法”についてお知らせします。

海洋プラスチックのごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応として、国内のプラスチック資源循環を一層促進するために作られた法律です。

多くの物品に使用されているプラスチックに対して、資源循環体制を強化し、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までの取組みを促進するための措置です。実際に私たちに直接関わってくるのは廃棄の部分です。

今までプラスチック製品のうち、容器包装の部分だけは、分別収集からリサイクルするまでの費用は、すべて業者負担になっておりました。今回の法律は容器包装プラスチック以外のプラスチック製品の分別収集とリサイクルについてが対象になります。そして、その費用はすべて自治体負担になります。

逗子市では容器包装プラスチック以外のプラスチック製品、たとえば文具やおもちゃや食器類、などは、今まで燃やすごみとして収集し焼却処分していましたが、今後はそれらのプラスチック製品も分別回収しリサイクルしなくてはならないのです。

燃やすごみを減らし資源を有効に利用することはとても大事なことで、ぜひ実施するべきなのですが、その費用を自治体つまり私たちの税金でまかなうとすると難しいところですね。

1月26日(水)に行われた市長相談の際の市長のお話では実施は、まだまだの様でした。

海洋汚染のマイクロプラスチックの問題、私たちは毎週クレジットカード一枚分位のプラスチックを食べているそうですからリサイクルを考える以前に何とかプラスチックにたよらない生活を志向していかななくてはと思います。今の状況では、なかなか難しいことですが、何とか努力していきましょうね。

◇◇◇市内の散乱ごみ事情◇◇◇

最近の、朝日新聞の声らんに、「駅にはやはりゴミ箱がほしい」という投稿が掲載されました。

市民のみなさまはどう思いますか。逗子では十年以上前から、市の人口数より多い6万人以上の人の集まる「市民まつり」で、ゴミ箱を置かないまつりを指向して実践してきました。

ここ二年間はコロナの影響でまつりは行っていませんが、最後にまつりを行った年や、その前年でのまつり時での会場のごみ状態はほんとうにすばらしいものでした。

まつり時に清掃係が会場をまわっても、ほとんどごみは見られませんでした。自分のごみは、みな持ち帰り、自宅で分別処分して下さっていたのです。

まつりの次の朝、会場だった公園を見まわっても、まつりの後とは思えないきれいな状態でした。全国に誇れる、まつりと自負していました。しかし、はじめた当初は、会場には捨てなくても、帰りに駅前にあるゴミ箱はまつりに来た人々の捨てていったゴミであふれかえって、その始末に翻弄されたものでした。その後、市内全域で、ゴミ箱のない町を指向して現在に至っているのですが、まつり時のように、市内全域「ゴミゼロ」はなかなか難しく、駅周辺や公園内など、ときにポイ捨てゴミに心を病めております。特にプラスチックゴミは海洋汚染の元凶でマイクロプラスチックのことを考えると放置できず、心ある方々が毎日ゴミ拾いをして下さっています。それが功を奏したのか、最近、放置ゴミが少なくなっているのです。

何人かのごみ拾いをして下さっている人の言葉でもあるのです。

他市の公園などへ行った方の話では、とてもひどいゴミだったとのことで、それに比べて逗子の公園はきれいよと言われました。そう言われてみると、今までひどかった、月曜日の朝のタバコの吸いがらや、飲みものの空ペットボトルや空缶などの散乱があまりみられなくて、寒さのせいで日曜日のおあそびがなくなったのか、捨てていた人の意識が向上したのか、わかりませんが、ゴミ拾いしている私たちにとってうれしいかぎりです。

ぜひこの状態がいつまでも続くことを祈っている日々です。

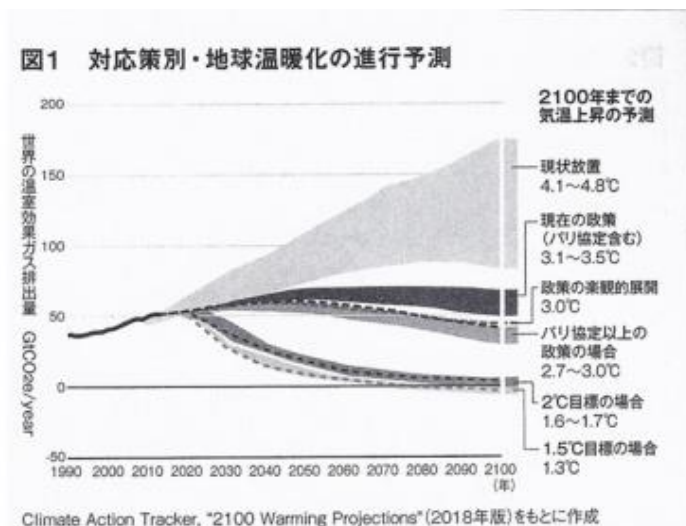


川にはまだこんなにゴミが

「自分の出したゴミは、自分で処理する」これはそんなに難しいことではないですよ。

市民まつりの時のように、散乱ゴミのない、美しいまちを、みんなで作りあげていきましょう。できれば、そのゴミを少しでも減らしていく努力をして、持続可能な地球を目指す市民になりたいですね。

◇◇◇SDGsは現代版「大衆のアヘン」◇◇◇



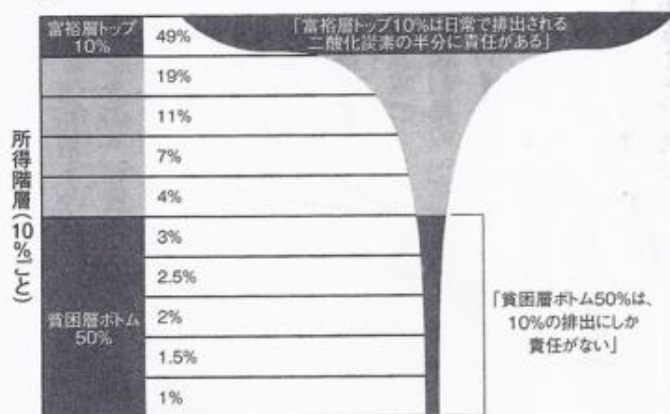
いみじくもマルクスは資本主義の辛い現実が引き起こす苦悩を和らげる宗教を「大衆のアヘン」と批判した。現在の気候変動に危機感を持つ齊藤幸平氏はSDGsはまさに現代版「大衆のアヘン」と称しています。つまりSDGsでは地球は救えないということです。彼は言う。マイバックを使い、マイボトルを持ち歩き、ハイブリッドカーに乗る。そんな善意は無意味で、有害ですらあると。それだけで温暖化対策をしている

と思ひ込み、真に必要なもっと大事なアクションを起こさなくなってしまうからだ。資本側が環境配慮を装って私たちを欺くグリーン・ウォッシュに取り込まれてしまう。何百億トンものCO₂を排出していた生活から排出ゼロを目標に掲げたというのに、私たちの生活はそれに見合うよう変化したでしょうか。

いいえ、相変わらずの高度経済成長を望み、豊かで快適な生活を続けているのではないのでしょうか。しかしその裏には、たとえば南米チリでは、私たちの「ヘルシーな食生活」のためということで、輸出向けのアボカドを栽培してきました。「森のバター」とも言われるアボカド栽培には多量の水が必要になり、また土壌の養分を食いつくすため、一度アボカドを生産すると他の種類の果物などの栽培は困難になってしまう。

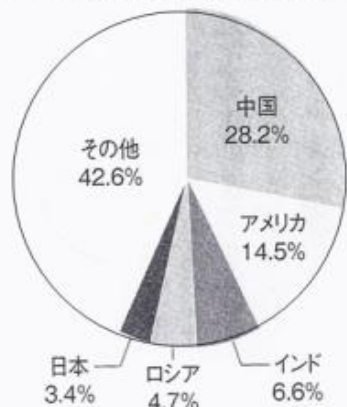
チリは自分たちの生活用水や食糧生産を犠牲にしてきたのである。そのチリを大干ばつが襲い深刻な水不足を招いている。これには気候変動が影響しているという。今そこに新型コロナによるパンデミックが追いつちをかけた。大干ばつでますます少なくなった水はコロナ対策として手洗いに使われるのではなく、輸出用のアボカド栽培に使われている。

図2 所得階層別・二酸化炭素排出量の割合



Oxfam, "Extreme Carbon Inequality" 2015 をもとに作成

図3 国別・二酸化炭素排出量の割合 (2017年)



日本エネルギー経済研究所計量分析ユニット編「EDMC/エネルギー経済統計要覧(2020年版)」(省エネルギーセンター、2020年)をもとに作成

つまり私たちの快適なライフスタイルがもたらす気候変動やパンデミックのマイナス面にまっ先にさらされるのは、このような国の人々なのである。

SDGsの「世界の貧困をなくす」の項目に掲げた私たちが気づかずにしていることは、こういう結果を伴っているのである。

そこで私も今年から生活を変えようと決心しました。食事は基本的に1日1回、エアコンは殆ど使用しないでコタツで細々暖をとる。

お風呂は3~4日に1回、湯舟の水は2~3ヶ月に1回全部入れ換えるだけ。

そうじも使わない部屋は2~3ヶ月1回、生活の場は1週間に1回という生活をするに実践しています。

年間予約のお米はフードドライブに利用してもらうことにしました。車の使用は最小限に、太陽光発電と温水器は20年以上の使用で効なく、県の無料での設置に応募しましたが85歳の私

には資格がなく生きていることのマイナスばかりが気になる日々です。 全文執筆：粟飯原留里子



二酸化炭素削減部会 ニュース

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

◇◇◇2021 年度後期前半の活動報告◇◇◇

- ① 8/5 に教育委員会主催の夏季教員講座で、地球温暖化防止に関する出前授業を On line で実施しました。
- ② 10/27 (水) 第 2 回“歩行者と自転車を優先するまち”WS。
市、関係部署と池田通りにおけるピクトグラム設置、銀座通りにおける自転車逆走等対策について、J R 逗子駅前歩行空間等向上のための基礎調査及び逗子市内交通渋滞予備調査業務について (報告)、カーフリーデー実施 (9/23) について (報告) 等がなされた。
- ③ 10 月 脱炭素社会に向けた市長への提言等提出。
- ④ 11/12 (金) ボラ協施設見学会に参加。池子の森自然公園内で生物多様性、自然素材で万華鏡作り等を体験。
- ⑤ 12/1 (水) JR 逗子駅前 で年末助け合い募金活動。

※前部会長の小屋氏は竹材を八太昭道氏発明のガス化炉を使いエネルギー化をすすめている。

2022 年 1 月 19 日演題「竹発電システムにおけるハイブリッド キルンの特性」を他の 2 名と共に「日本エネルギー学会 バイオマス科学会議」で発表した。

◇◇◇COP26 が閉幕◇◇◇

英国グラスゴーで 2021 年 10 月 31 日から開かれていた気候変動対策を話し合う国連の会議「COP26」は、11 月 13 日、成果文書「グラスゴー気候協定」を採択して閉幕しました。結果を取り纏めると下表の通りとなります。

産業革命前からの気温上昇	1.5℃を事実上の目標とする
削減目標の見直し	来年までに 1.5℃ペースで見直し・更新。以後、5 年毎の更新、毎年更新を呼びかける
石炭火力発電	排出量削減策のない石炭火力は段階的に削減
化石燃料への補助金	補助金を段階的に廃止
温暖化に備えるための途上国援助	2025 年までに倍増
パリ協定の詳細ルール	国際間削減量取引のルールを取り決め
各国による削減目標の見直し	150 か国以上が更新
有志国などによる連合	メタン削減・ゼロエミッション自動車・脱石炭・森林保護などに有志国が取組を約束

参考文献：

1. 環境省 HP

http://www.env.go.jp/earth/cop/koushou_keii.pdf

地球温暖化に係る国際交渉の経緯

2. 国立研究開発法人 国立環境研究所 HP

<https://www.nies.go.jp/kanko/news/21/21-1/21-1-05.html>

「COP (コップ) とは？」環境問題基礎知識

3. WEBRONZA HP

<https://webronza.asahi.com/business/articles/2018120600003.html?page=1>

◇◇小型電力量計(ワットアワーマーター)を貸し出します◇◇

<https://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/kankyo/env/p04165.html>

逗子市では消費電力量を測定・表示することができる小型電力量計（ワットアワーマーター）を貸し出しています。

普段使用している家電製品の消費電力量を調べて、わが家の節電を考えてみましょう。

電気製品の中には使っていないなくてもコンセントに差ししているだけで電力を消費していることがあることがわかり、びっくりな気がします。

ご家庭の節電に役立ててみませんか。

貸出期間：2週間

対象者：逗子市内在住者

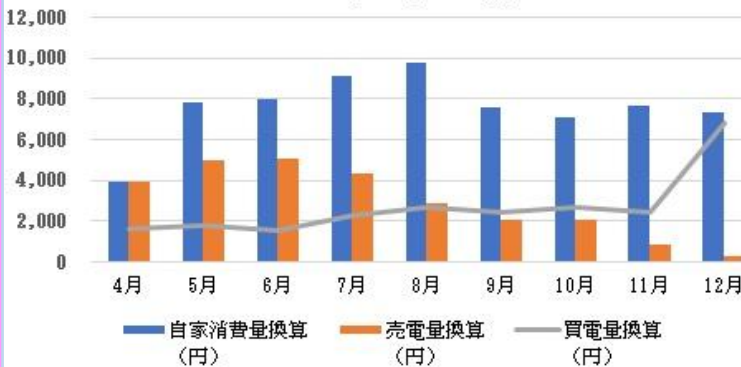
申し込み：住所が確認できるもの（運転免許証。健康保険証など）を持参し、環境都市課窓口で必要事項を記入。

※数に限りがあるため、事前に電話またはE-mailでお問い合わせください。



◇◇太陽光パネル・蓄電池を使ってみました◇◇部会員実践報告

図1 太陽光パネル・蓄電池活用による電気料金例 (2021年4~12月)



2021年4月14日に屋根に太陽光パネル20枚（4KVA）と蓄電池（9.5kwh）を設置して約9ヶ月間活用してみた（図1）。

※4月は他の月の半分日数の合計です。

雨や曇りの日は発電量がへる（図2）。

明るくなり始める5時頃から暗くなる18時頃までは発電が可能（図3）。

2022/1/16 11時で累積1956kg-CO2削減

次回1年経過後総合評価、報告予定。

